



# GLOBAL MAPPING NewsLetter 35

## PCGIAP アジア太平洋空間情報基盤 (APSDI) ワークショップ及び理事会報告

ワン・チュンフェン博士

PCGIAP 副会長

中国國家測繪局副局長



ワン・チュンフェン博士

### 1. 概要

PCGIAP 作業部会 1（地域測地）と同作業部会 2（基盤データ）との共同企画によるアジア太平洋空間情報基盤ワークショップが9月7日、8日、引き続いて理事会が9月8日、9日に中国・成都で開催されました。ワークショップの目的は、PCGIAP の最終的なゴールである APSDI 構築へ向けてのこれまでの活動のさらなる強化推進と、その実現のための技術的課題の解決でした。

### 2. ワークショップ

二日間のワークショップは初日の全体会議から始まり、ヤン・カイ中国測地地図リモートセンシング学会会長を議長に、APSDI 計画と世界の動静と題し、SDI 分野の有識者らが、

各自の経験から取り組みと課題を論じました。世界的な規模で着実に整備の進んでいる地球地図からは、データモデリングに関する発表がありました。その後の分科会ではさらに、WG1 では測地系、APGRP 及び WG1 作業計画について論じられ、WG2 では汎アジア太平洋フレームワークデータおよび APSDI クリアリングハウスをテーマとした討論が行われました。また、今後の各国の積極的な参加、協力が実現への鍵であるとの見解が再確認されました。8本の決議が採択され、それを受けて WG1、WG2 は行動計画と活動の強化推進を行います。ワークショップには10カ国から約45名の参加があり、参加者は中国測繪局四川省支部を訪問しました。

### 3. 理事会

理事会の目的は、インド・バンガロールでの第10回 PCGIAP 会議の後の理事会並びに作業部会での活動報告とその承認でした。去る5月、マレーシア・クアラルンプールでの第3作業部会主催による海洋地籍国際ワークショップ、理事会直前の APSDI の報告がありました。また、ISCGM や GSDI、PCIDEA、ISO/TC211 などの国際機関からの報告があり、各機関との協力が様々な方法で具体化されています。

## イスタンブール、ISPRS 会議

建石隆太郎（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）

ISCGM WG4 座長

ISPRS IV / 8 部会長（2000-2004）



建石隆太郎 教授

第20回国際写真測量リモートセンシング学会（ISPRS）会議は、2004年7月12日～23日までトルコ・イスタンブール

で開催されました。ISPRS 会議は、4年ごとにオリンピックの年に行われます。次の統計データが示すとおり、ISPRS 会議は写真測量、リモートセンシングおよび GIS 分野での一大学術イベントです。全プログラムへの参加者1252名、割引参加者327名、同伴者122名、一日参加者100名を含む1801名の参加がありました。116の口頭セッションと61のポスターセッションにおいて、それぞれ567件の口頭発表と1151件のポスター発表が行われました。ISPRS は7委員会（2004年～2008年は8委員会）から構成されます。各委員会にはおよそ7つのワーキンググループ（WG）があり、合計は約50となります。各WGの座長は該当するセッションの司会を務めます。「地球環境データベース」と題された口頭セッションで、D. R. F. テイラー ISCGM 委員長が「地球地図：持続可能な開発のための空間データ基盤を提供する国際協力の挑戦と機会」について招待発表を行いました。テイラー教授は、地球地図の重要性を述べ、地球地図をもっと利用するよう参加者に呼びかけました。

会期中、総会が4回開催され、各国の代表機関（通常会員）が、2004年～2008年まで次期4年間の ISPRS 活動についての諸事項を決定する投票を行いました。ロンドン・ユニバーシティカレッジのイアン・ドウマン教授が ISPRS の新会長に指名されました。資源及び環境モニタリングに関する第VII委員会が新たに2分割され、リモートセンシングデータの主題処理、モデリングおよび解析に関する第VII委員会と、リモートセンシングの利用および政策に関する第VIII委員会となりました。

また、総会では決議も決定されました。決議では今後4年間に展開すべき学術的方向性や活動について述べています。8委員会において約60本の決議が決定されました。そのうち ISCGM に関係する箇所は以下のとおりです。

決議IV.6 国家および地域空間データベース：「本会議では、GSDI、地球地図プロジ



ガラタタワーから見たコンスタンティノープル旧市街あたりの光景

ェクトおよび CEOS WGISS などの全地球空間イニシアティブとの協力を勧告する。」

決議IV .7 全球空間データベースおよび環境基盤：「本会議では、ISCGM、CEOS WGISS、ICA 空間データ標準に関する委員会など、関係の全地球空間イニシアティブとの協力を継続するよう勧告する。」

決議VII .6 全球データベースの作成と利用：「本会議は、第IV委員会およびIGBPとの協力による、全球規模の研究のための全球データベースの作成と品質評価の方法論の整備を継続するよう勧告する。」および「本会議は、土地利用、土地被覆および土地変化など地球変動の監視のためのアルゴリズムを開発するよう勧告する。」

## JICA 集団研修 04：地球地図作成技術コース開始

国土地理院では、測量・地図作成分野における国際協力の一環として、JICA スキームを通して、開発途上国への技術移転を図るため、毎年それぞれの国から研修員を受け入れております。今年も、7月26日から10月7日までの約3ヶ月間「地球地図-GISによる地球地図整備への貢献」のコースが実施されました。この研修では地球地図プロジェクトを推進するためのリモートセンシング技術や、地理情報システム技術を修得するなどの人材育成を目的としております。

この研修には、カンボジア、中国、グア

テマラ、インド、サモア、タイ、チュニジア（2名）、バングラデシュなどから8カ国、9名の研修員が参加しております。この研修は1994年から開始され、今年で11回目を迎え、これまでに36カ国から、67名が参加しております。

研修員は、国土地理院職員による講義、実習さらに関係機関への見学、実習旅行などを通して地球地図作成技術を修得するとともに、多くの技術者との交流を深め、また日本の自然や文化にも触れてもらうことになっています。

## 地球地図集団研修コース - 2004

ムハムドゥン・ナビ

地球地図コース個別研修員

バングラデシュ測量局部長

生物は地球環境から切り離すことはできません。人間は、この大切な環境の劣化はどれをとっても我々の損失となることを益々感じています。そのため、国連人間環境会議（1972年）やエビアン G8 サミット、地球観測サミット、情報社会に関する世界サミット、国際地図学会議、統合地球環境戦略、ケンブリッジ会議など、数多くのフォーラムが環境ガバナンスを通じた環境保護に重点をおいていま

す。人類の存亡や持続可能な開発、幸福といった基本的な事項は今日の考え方や精神の中心的なテーマとなっています。

差し迫った環境の問題には、温室効果（海面上昇、オゾンホール、気候変動、砂漠化、気温の上昇、酸性雨など）、飲料水の危機的状況、大気汚染、水質汚染、産業廃棄物処理、災害管理などがあります。これらの

問題には地球規模の取り組みが必要であることが国際社会で強く考えられるようになり、そのために、今日の技術による一貫性のある空間データ基盤が求められています。それを受けて日本は1992年に地球地図構想によってこれらの問題に率先して取り組み、国土地理院が1994年に最初の地図仕様案を提案しました。

地球地図は、地球の全陸域を網羅する統一仕様で解像度 1km の地理情報を整備する、だれでも廉価で利用できる国家地図作成機関の任意参加の協力によるプロジェクトであり整備作業です。このプロジェクトの主な目的は、地球地図データを提供し全世界の持続可能な開発に貢献することにあります。データが完成すると貴重な財産となり、多様な生物からなる自然のためばかりでなく、人間の様々な幸福のためにも利用される均質の全地球空間データ基盤と認められることとなります。

このプロジェクトの開始以来、大きな進展がなされました。しかし、未参加国の参加促進、地球地図データのより効果的な普及と利用の推進、地球地図仕様の改定、効果的なパートナーシップの推進、人材育成など、依然としていくつかの克服すべき課題が残っています。

国土地理院では、国際協力機構の主催により人材育成として開発途上国への技術移転のために、毎年、地球地図集団研修を行っています。このプログラムの終了までに、研修員は地球地図データ整備技術と方法を習得し、特に地球環境問題に対処するための政策策定における地球地図の重要性を理解

し、関連分野の最新技術の知識を高め、自国での地球地図プロジェクトを十分に調整できるよう、地球地図データの更新技術を習得し、地球地図の利用について理解を深めることとなります。このコースでは、現在までに今回の9名（写真参照）を含め36の国々から67名の参加者を受け入れています。

このコースには価値のある講義や関連の実習、課題に関連する施設の視察が盛り込まれ、素晴らしい内容であることは特筆すべきです。コース名の示すとおり参加者全員が国土地理院で用いられる最新技術の全ての工程に従い地球地図の試作品を作成することとなります。また、リモートセンシング技術センター、千葉大学リモートセンシング研究センター、シリコン・スタジオ（株）、宇宙航空研究開発機構（地球観測利用推進センター）、生物多様性センター、東京電機大学、北海道地方測量部を視察しました。これらの視察によって、人類の幸福や自然に関する環境ガバナンスのための、特にリモートセンシングを用いた最新の調査作業について見識を高めることができました。私たちは、環境についての意識とともに地球地図の構想や作成、利用について、確実に知識を深めることができました。研究に携わる日本の専門家や科学者が、現在の世界をより美しく、より良くするために研究分野でたゆまぬ努力を続けていることを目のあたりにし驚きました。彼らに心酔し、彼らの崇高な努力に敬意を表します。日本が希望に向かってさらに卓越し、人類の幸福のために指導者として私たちを支えてくれるよう心から希望します。

最後に、私たちすべての研修員は、日本国政府、国土地理院、国際協力機構、同



筑波国際センターや素晴らしい日本の人々が、最新の専門知識、豊かな文化と遺産、勤勉な社会、美しい自然、よく整った制度と印象深い情熱や愛情を教えてくれたことに心から感謝します。特に、様々な文化を背景とする研修員が相互に影響しあうための土台を提供し、それによって結びつきが強まり、調和がとれたことも、私たち全員にとって忘れがたい経験となりました。日本や世界の平和を愛する国々との間の友情に万歳。



研修旅行

### コネチニ国際地図学協会会長が国土地理院を訪問

9月6日、ミラン・コネチニ国際地図学協会会長は、日本国つくば市の国土地理院を訪問し、渡邊茂樹国土地理院長及び丸山弘通地球地図国際運営委員会事務局長らと会談しました。会談では、国際地図学協会側から、百万分1の基本地図情報である地球地図の整備について、世界の地図作成機関と協力しつつ日本が継続して努力していることに対し賛意が表されるとともに、国土地理院側から国際地図学協会が特にアフリカやラテンアメリカ、アジアの開発途上国に対し、

デジタル地図やGPS、GISの普及に努力されていることについて敬意を表しました。チェコ共和国ブルノ市にあるマサリク大学のコネチニ教授は、ユビキタスマッピングに関するICA委員会（委員長：森田法政大学教授）と地図を使ったコミュニケーション委員会（委員長：ピーターソン米国ネブラスカ大学オマハ校教授）の合同会議に参加するため来日。この会議にあわせて、慶応大学ではSVGオープンコンファレンスが同時開催されました。

### 第12回 ISCGM 会合、2005年4月エジプト・カイロで開催予定

第12回地球地図 ISCGM 会合は2005年4月17日と21日にエジプト、カイロにおいて「FIGワーキングウィーク2005とGSDI8」に併せて開催されます。17日の会合はISCGMの定例年次会合です。また4月21日の会合はFIG/GSDI会議セッションのひとつとして開催され、本会議の出席者は誰でも参加することができます。21日の会合はアラブ諸国の地球地図プロジェクトへの参加を促

進するために計画されました。本セッションを成功させるために、地球地図や関連の課題についての発表を歓迎します。

ISCGM 会合を含む「FIGワーキングウィーク2005とGSDI8」の詳細と論文募集は<http://www.fig.net/cairo/>に掲載されております。

### 第3回 ナイロビ地球地図セミナー開催

地球地図整備の政策的・技術的意義や応用事例を習得することを目的とした地球地図セミナーが、11月8日（月）から11

日（木）の間、ケニア・ナイロビにある開発のための資源地図地域センター（RCMRD: Regional Center for Mapping of Resources for

Development) において開催されます。

このセミナーは、日本国国土交通省が推し進めている地球地図パートナーシッププログラム (GMPP: Global Mapping Partnership Program) スキームの中で運営されるもので、主催者として、国土交通省 (MLIT)、地球地図国際運営委員会 (ISCGM)、RCMRD が名を連ね、ケニア測量局 (SOK)、ケニア測量

地図学院 (KISM)、JICA がスポンサーとなっています。

セミナー参加対象者は、アフリカ地域の国家地図作成機関の職員であり、関係者によるパネルディスカッション、各機関の活動報告、参加者による国別活動レポートなどが行われることになっています。(詳細は次号にて紹介)

### レバノンとモントセラトが地球地図に参加

国立リモートセンシングセンターとレバノン国防省レバノン陸軍地理部 (LAGA) が7月14日に地球地図に参加しました。

モントセラト自然計画部と土地測量局が7

月20日に地球地図に参加しました。

レバノンとモントセラトの参加によって9月22日現在の地球地図参加国・地域は135となりました。

### 地球地図データ公開

データ公開：6月23日、スワジランド

### 地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

#### 2004 年

- 10月3日～7日、インドネシア、ジャカルタ  
FIG アジア太平洋地域会議
- 10月18日～22日、ドイツ、ミュンヘン  
国連災害管理のための宇宙技術利用に関する国際ワークショップ
- 10月29日、メキシコ、アグアスカリエンテス  
第5回 PC IDEA 会合
- 11月7日～10日、ドイツ、ベルリン  
第19回国際 CODATA 会議
- 11月29～30日、カナダ、オタワ  
第5回地球観測サミット作業部会 (GEO) 会合

#### 2005 年

- 2月14日～16日、ベルギー、ブリュッセル  
地球観測サミットⅢ及び GEO-6
- 3月21日～23日、オランダ、デルフト  
第1回災害管理のための地理情報国際シンポジウム
- 4月16日～21日、エジプト、カイロ  
FIG ワーキングウィーク 2005 及び GSDI8
- 4月17日、21日、エジプト、カイロ  
第12回 ISCGM 会合
- 7月9日～16日、スペイン、ラコルニャ  
第22回 ICA 国際地図学協会会議

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: [sec@iscgm.org](mailto:sec@iscgm.org)